

2019年度第11回霞ヶ浦自然観察会実施結果報告

「霞ヶ浦に来る冬鳥 オオヒシクイを探そう」を実施しました。

日 時：2020年1月11日（土曜日）午前9時30分から午後3時15分まで

場 所：稲敷市稲波干拓および妙岐ノ鼻

参加者：40名

結 果：曇りの日でしたが、風がほとんどなくて、寒さをあまり感じない良い一日でした。

バスを下車した空地脇の草藪には、よく見るとスズメより小さな鳥が飛び回っていました。カワラヒワです。観察小屋を目指して歩く前に、講師の川崎先生から双眼鏡の使い方を教えていただき、双眼鏡を覗いて、鳥を探しながら歩きました。やはり飛んでいる鳥は双眼鏡に入れるのは、難しいようでしたが、電線などに止まっている鳥は、初めての人も双眼鏡でうまく捉えられたようで、ハシボソガラスや長い尾を振っているモズなどを観察していました。何もない水田は鳥を見つけやすく、一人が鳥を見つけ、「あ、いたいた」と声を出すと、すぐに近くの人から「どこどこ」と声が上がり、和やかな観察会となりました。畦にジッと止まっている、大きなアオサギはよく観察できたようでした。その他にタゲリ、ツグミ、タヒバリなどが観察できました。

途中で、「今日はオオヒシクイがいない」との情報が入りました。今朝、軽トラックが干拓地内に入り、危険を察知したオオヒシクイは全て他の場所へ避難をしたそうです。オオヒシクイの休憩場所が、水田の真ん中であるので、農作業との競合は致し方ないようです。途中で堤防に上がると、カモがたくさん水面に浮かんでいました。小さなカモのカイツブリがいましたが、よく水に潜り、離れた場所で水面に出るので、双眼鏡では捉えにくかったようです。そのほかに、カルガモ、コガモ、マガモ、オナガガモ等が観察できました。

観察小屋では稲敷雁の郷友の会の方にオオヒシクイのビデオを見せていただき、オオヒシクイはどんな鳥か見ることができました。オオヒシクイを見たことがなかった人は、ビデオで見られて、一応満足したようです。また、小屋の近くの水面には雌雄のオナガガモが数多く浮かんでいて、その数の多さに感激している人もいました。

和田公園に移動し、昼食をとった後、妙岐ノ鼻へ移動しました。展望台から湿原を眺めると、遠くの木に猛禽類が止まっているのがわかりました。空には遠くで小さいですが、悠々と舞っている猛禽類がいました。

猛禽類を長く観察した後、湿原を横断して水面が見える場所まで歩き、ミサゴ、カワウ、ダイサギ等を観察しました。バスに戻ろうとした時に、本日最後にきれいな鳥カワセミを見つけ、観察会は終了となりました。

残念ながら今回の観察会のメインの鳥であるオオヒシクイは一羽も観察できませんでしたが、何種類の猛禽類が見られ、最後にはカワセミも見られたことで、皆さんは満足したようです。今回、オオヒシクイが見られなかったのも、来年になります。オオヒシクイの観察会を開催したいと考えています。

観察した鳥：オオタカ、チュウヒ、チョウゲンボウ、ノスリ、カシラダカ、セグロセキレイ、アオジ、アカハラ、ウグイス、エナガ、オオジュリン、ハシボソガラス、ツグミ、ビンズイ、ホオジロなど41種
(腰塚昭温)

次に観察会の様子を紹介します。



草藪のカワラヒワ等を観察



モズ、ヒヨドリ、カラス等を観察



広い干拓地での探鳥



干拓地で見つけたアオサギ



妙岐ノ鼻の展望台から猛禽類を観察